

## 課題研究要旨

# 北海道におけるソーシャルワーク・スーパービジョンネットワーク構築 に関する基礎的研究

—名寄市立大学スーパービジョン研究センター(仮称)創設の可能性の検討を含めて—

松浦智和<sup>1)</sup>\* 橋本達志<sup>2)</sup> 岸 美佳<sup>3)</sup> 佐々木旭美<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup> 名寄市立大学保健福祉学部社会福祉学科 <sup>2)</sup> 就労継続支援B型事業所こころカ・プロダクション

<sup>3)</sup> 旭川市障害者総合相談支援センターあそと <sup>4)</sup> 砂川市立病院認知症疾患医療センター

## 1. 緒言

既報の通り、ソーシャルワーク実践においては、多様化・複雑化するニーズに対応するためにより高度な専門性、知識と技術を有する人材の養成と実践的なスーパービジョンが求められるようになっている<sup>1,2)</sup>。スーパービジョンとは、対人援助専門職がその価値観・知識・技術を継続して学び、元から備わっている資質をさらに発展させ、自分自身の成長を促していく機会である<sup>3)</sup>。本報告では、筆者らが2020年度に北海道上川地域と空知地域で実施したソーシャルワーカーを構成員の中心としたグループスーパービジョンの活動を中心に報告する。

## 2. グループスーパービジョンの実施状況

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先に以下の活動を実施した（表1・2）。

表1 上川地域におけるグループスーパービジョン

回	日程	テーマ・内容
1	2020年7月31日	①オリエンテーション ②4チームに分かれたグループスーパービジョンの実施 「自己紹介、チーム名の決定、次回のテーマ担当者、連絡方法、次回の日程調整」
2	2020年8月28日	<チームA>発題者：精神科デイケア精神保健福祉士 テーマ：「外部の他機関との連携について」 <チームB>発題者：障がい福祉サービス事業所管理者 テーマ：「管理者・サービス管理責任者としてのモチベーション維持」 <チームC>発題者：医療機関ソーシャルワーカー テーマ：「退院支援の難しさ」と葛藤 <チームD>発題者：障がい福祉サービス事業所精神保健福祉士 テーマ：「今の仕事を100倍楽しくできる方法について」
3	2020年9月18日	<チームA>発題者：行政機関支援員 テーマ：「事例検討」 <チームB>発題者：医療機関ソーシャルワーカー テーマ：「ソーシャルワーカーにおける専門性、ソーシャルワークとは何か？」 <チームC>発題者：障がい福祉サービス事業所社会福祉士 テーマ：「重症児者の意思決定」 <チームD>発題者：障がい福祉サービス事業所社会福祉士 テーマ：「自分の本当にしたい仕事は何なのか？」
4	2020年10月16日	<チームA>発題者：教育機関ソーシャルワーカー テーマ：「教育現場におけるソーシャルワーカー（福祉職）の在り方」 <チームB>発題者：障がい福祉サービス事業所精神保健福祉士 テーマ：「専門職としての軸のブレ」 <チームC>発題者：障がい福祉サービス事業所管理者 テーマ：「職員の定着及び人材育成について」 <チームD>発題者：障がい福祉相談支援センター社会福祉士／精神保健福祉士 テーマ：「相談者の最善の利益とは何か？」
5	2020年11月6日	新型コロナウイルスの影響により中止
6	2020年12月4日	新型コロナウイルスの影響により中止
7	2020年12月9日	Zoom ミーティング（これまでの振り返り）

8	2021年2月19日	新型コロナウイルスの影響により、Zoomと集合型を併用して実施。 チームは参加可能な人をシャッフルしたチーム編成とした。 ＜チームA＞Zoom 発題者：障がい福祉相談支援センター管理者 テーマ：「要配慮相談者への対応について」 ＜チームB＞発題者：居宅介護支援事業所介護支援専門員 テーマ：「一つの仕事を長く続けていく為には…」 ＜チームC＞発題者：障がい福祉相談支援センター社会福祉士／精神保健福祉士 テーマ：「モチベーションを上げるためにはどうしたら良いのか」
9	2021年3月12日	新型コロナウイルスの影響により、Zoomと集合型を併用して実施。 チームは参加可能な人をシャッフルしたチーム編成とした。 ＜チームA＞Zoom 発題者：障がい福祉相談支援センター精神保健福祉士 テーマ：「相談者の人生における、今と未来、どこまでをイメージしたらいいだろうか？」 ＜チームB＞発題者：障がい福祉サービス事業所管理者 テーマ：「私自身の役割の整理について」

表2 空知地域におけるグループスーパービジョン

回	日程	テーマ・内容
1	2020年5月22日	発題者：医療機関ソーシャルワーカー (PSW) テーマ：いつまで在宅生活していいですか
2	2020年6月26日	発題者：居宅介護支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：私の専門職としての自己実現
3	2020年7月17日	発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：当たり障りのない選択への後ろめたさと折り合いのつけ方
4	2020年8月7日	発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：エネルギーを無くしている～なぜ無くしたのか
5	2020年9月11日	発題者：障害者支援施設職員 テーマ：苛立ちが止まりません
6	2020年9月26日	発題者：居宅介護支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：専門職としてのスーパービジョンの実践
7	2020年12月18日	発題者：障害者支援施設職員 テーマ：（続き）一般常識にとらわれて利用者を自分の形にはめたくなくなってしまう
8	2021年1月15日	＜チームA＞発題者：高齢者福祉施設生活相談員 テーマ：「職員個々の価値観の違いを、気にしていないかと思いつきにしている自分」 ＜チームB＞発題者：スーパーバイザー (大学教員) テーマ：講話「先輩たちの杞憂の源に迫るために」
9	2021年2月12日	＜チームA＞発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「スーパーバイザーに求められる資質とは」 ＜チームB＞発題者：スーパーバイザー (大学教員) テーマ：講話「先輩たちの杞憂の源に迫るために」
10	2021年3月19日	＜チームA＞発題者：医療機関ソーシャルワーカー (PSW) テーマ：「押しつけがましい支援になっていないか不安です」 ＜チームB＞発題者：相談支援事業所ソーシャルワーカー テーマ：「正解のない福祉の世界で“ベスト”を見つけるには」

### 3. 結果・考察

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、グループスーパービジョンは対面とオンラインを状況に応じて使い分けたほか、ハイブリッド方式も導入した。また、先に示したそれぞれの地域のグループスーパービジョン以外にも、感染拡大の観点から、少人数もしくは事業所単位でのグループスーパービジョンなどを実施した。さらには、個別スーパービジョンも取り入れながら、参加者の「成長したい」という思いに応える仕組みづくりを模索した1年となった。これまでも検討してきたが、「ソーシャルワーカーが成長することで、地域が成長する」という可能性について、現下の状況でも論究すべく、詳細な研究結果については別稿にて報告したい所存である。また、先述のような事由から、大学がスーパービジョン研究センターを創設することの意義や可能性についても十分な議論ができなかった。こちらでも別稿で報告したい。

### 文献

- 1) 松浦智和 (2018) 地域におけるソーシャルワーク・スーパービジョンのニーズに対する取り組み, 職能団体認定スーパーバイザー・事業所・大学による協働をめざして, 名寄市立大学社会福祉学科研究紀要 8: 33-48.
- 2) 松浦智和, 橋本達志, 岸美佳, 佐藤剛, 櫻田裕司 (2019) 上川地域におけるソーシャルワーク・スーパービジョン研修会開催の試み: グループスーパービジョン実践を中心に, 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター年報 3: 95-100.